

第6期 第11回「中央区自立支援協議会」議事要旨

1 開催日：令和3年3月10日（水）

2 開催方法：書面開催（「意見票」の提出をもって出席とする）

3 議事

(1) 中央区障害者計画・第6期中央区障害福祉計画・第2期中央区障害児福祉計画について
【資料1】、【資料2】

(2) 部会からの最終報告について【資料3】

(3) 第6期中央区自立支援協議会の最終報告書（案）について【資料4】

(4) その他【資料5】

4 出席者

委員 18名

是枝会長、齋藤副会長、上田委員、橋本委員、草川委員、相澤委員、前場委員、室田委員、磯野委員、沼崎委員、佐野委員、佐藤委員、小林委員、丸物委員、古田島委員、田中委員、山本委員、生島委員

5 要旨（意見票）

○齋藤副会長

・各部会ともたくさんの事柄について多くの議論が重ねられて、まとまった報告となっていると思う。

○上田委員

①部会からの最終報告について

- ・各部会について、幅広く適切な方で委員が構成されていると思う。
- ・どの部会も各委員が精力的に論議され、まとめられたことがうかがえる。また、内容も非常に具体的で、しかも総合的な視点でまとめられており、今後の対策を考える土台ともなる資料であると思う。
- ・「医療的ケア児等支援連携部会」が設置されたことには大きな意義があったと思う。

②中央区障害者計画について

- ・計画がどの法律等に基づいて作成されているかなどが示されており、また、用語集が付いているので、全体として非常にわかりやすい内容になっていると思う。
- ・具体的な数値目標をあげることにより単年度ではない中期的な計画に基づく予算化ができることなどを計画書の初めに明記しておくと思う。さらに、予算の情報が入手可能であることも明示すれば、数値目標の妥当性等の検証に役立つと思う。

③パブリックコメントについて

- ・No.3、4の特別支援学級に関する要望では、特別支援学級以外の通常学級、通級、特別支援学校の現状等を総合的に考えて回答する必要があると思う。
- ・No.22、23では、「手話言語・障害者コミュニケーション条例」にみられるように他の内容と一体的な支援の必要性の検討が必要だと思う。
- ・No.29では、障害者差別解消法が規定している合理的配慮の推進で、民間の取り組み等を支援する方策も有効だと思うので、そういった区民の声が必要だということも回答に含めても良いと思う。

○草川委員

①障害者（児）サービス部会について

- ・障害者（児）と、医療的ケア児という新しく定義された言葉の間には、共通部分も多くあることから、今後はもう少し大きなとらえ方をして制度を進めていく必要があると感じる。

②地域移行・地域定着部会について

- ・精神障害は、環境によりその対象者数や重症度などが大きく変動し、見通しを立てにくい分野だと理解しているが、今回の報告書を見ると一步一步進んでいると感じた。

③就労支援部会について

- ・障害者の就労と自立は重要な課題であり、こうした事業の周知徹底が必要だと感じる。

○佐野委員

- ・母親と引きこもりの息子の二人暮らし家庭の話聞くが、本人の短期入所施設や家族に対する避難施設等が必要ではないか。

○佐藤委員

- ・中央区障害者計画・第6期中央区障害福祉計画・第2期中央区障害児福祉計画の119ページ以降の就労系サービスに関して、新型コロナウイルスによる就労情勢が実績にも影響すると予想される。訓練を必要としている方などの人数は増える一方、企業案件が少なくなっている傾向があり、引き続き情勢に対応できる支援が必要になると感じる。

○小林委員

①部会からの最終報告について

- ・各部会について、コロナ禍においても工夫して開催されていることに感心した。
- ・障害者（児）サービス部会の部会長として、本部会は多くの意見があり活発な部会であり、有意義な経験をさせていただいたが、政策の中に具体的な仕組みや事業に提言、実現をすることができなかったことが心残りだった。特に「地域生活支援拠点等整備」について多く議論を重ねてきたが、地域の仕組みとしてブラッシュアップできなかったことが悔やまれる。

②その他について

- ・パブコメのNo. 16について、主に知的障害がある学生は、「学ぶ」を選択できる機会がほぼないと認識しており、障害のある方にも学びの場を提供していく必要があると強く感じる。

○丸物委員

- ・精神障害者には、社会生活・職場生活に関する相談ができる施設が十分にあるのだろうか、また、相談先を知っているのだろうか。もし、身体障害者や知的障害者ほど相談できる施設がなく、一人で暮らす道を選択せざるを得ないとすれば、何らかの対応を打つ必要があるのではないかと。
- ・「ピアカウンセリング」が見直されており、中央区の精神障害者の相談施設にこのような方がいなければ、採用してみても良いと思う。「ピアカウンセリング」は精神科医の代わりに精神障害者の話を聞き、医師に伝えることにより、時間短縮とポイントをついた報告で、成果を上げている。

以上